

高齢化する地域住民に配慮した医療再整備で、広さと設備、配置にこだわったトイレ。



1Fに設けられた採尿棚付きトイレ。跳ね上げ手すり、L型手すり、背もたれなどが設置されている。

1940年代から地域の医療を営む滝宮総合病院は、香川県のほぼ中央に位置する総合病院です。

建物の老朽化や、旧中央棟と北棟の耐震不足が懸念されるため、診療部門や病棟を整備した本館を建設し、

2012年7月に完成。がんの健診・診断・治療や救急機能を充実させるとともに、療養環境の大幅な改善が行われています。

今後はさらに、既存の北棟と中棟の取り壊しを行い、健康館(改修)と本館をつなぐ「滝宮モール」を建設。

すべての機能が整備されるグランドオープンは、2013年11月を予定しています。

本館を新築し、がん治療・回復期リハビリ病棟などを充実。病棟のトイレには半分散型を採用。

今回の病院の再構築により、新しい本館にはがん治療の充実に向け外来化学療法室を拡充し、最新の放射線治療装置を導入。救急医療のさらなる充実をはかり、これまで分散していた外来部門も集約しました。病室は最低1床当たり8m²以上の広さを確保。ますます進む高齢化に対応し、3Fには35床の回復期リハビリテーション病棟も備えています。

トータル191床のうち、一般的な個室は54室。2床室や4床室などの病棟のトイレは半分散型のレイアウトにし、広めの空間を確保しました。電子カルテを導入し、外来の患者さんをわかりやすく誘導するため、サインと情報システムを併用した番号表示にするなど、新築と同時に積極的なIT化も推進。地域の大きな期待を受けた環境の整備が、着々と進められています。



【滝宮総合病院】

- 竣工年月／2012年7月
- 所在地／香川県綾歌郡綾川町滝宮486
- 施主／香川県厚生農業協同組合連合会
- 設計／株式会社内藤建築事務所
- 病床数／191床
- 延床面積／10,984.21m²(本館)
18,626.44m²(全体)
- 構造規模／鉄骨造(制震)4階建て(本館)

左側の4階建ての建物が、新しく建てられた本館。
制震構造を採用している。



2層吹き抜けの受付ロビー。外来関係のスペースは緑、診療関係は水色と、サインが色分けされている。



一つの病棟に必ず一つの汚物室を設け、レバーハンドルで水はねの少ない新型の汚物流しを導入している。

設備もインテリアもホスピタリティに満ちた快適に使えるトイレ空間。

トイレはゆったりとした広さを確保し、手すりや背もたれなど、安全を守るための設備が備えられています。1Fの採尿用トイレは、検査ゾーンと隣り合わせに配置した機能的なレイアウト。インテリア性の高い空間の中に、採尿棚も美しく配置され、気持ちよく使えるように工夫されています。

また、患者さんやスタッフの利便性を考慮して、1Fの泌尿器外来には、尿流量測定装置を導入。トイレでいつものように排尿するだけで、尿流測定(尿の勢いや出方の検査)を行うことができ、患者さんの検査負荷軽減に一役買っています。



1F外来の男性用トイレ。小便器はすっきりとしたデザインで、専用の手すりも形状にこだわっている。清掃のしやすさも大きな特徴である。



1F泌尿器外来の、患者さんが自分で簡単に操作できる、尿の勢い・出方を調べるトイレ。検査後の後始末はトイレの水を流すだけなので、看護師さんにも喜ばれている。

Voice 事務部長さんからの声

綿密な計画に基づいた、大規模な再開発ですね。



滝宮総合病院
事務部長
片桐康志さん

複雑な建て替えで全体的な工事期間が長いので、患者さんにできるだけご迷惑がかからないように、スケジュールと移動の計画を立てています。新たな療養環境で、トイレをどうつくるかはたいへん重要です。自分でトイレに行けることが大切なのですが、お年寄りの方だと我慢してしまう人も多いし、トイレへ行くまでに転倒される人も多い。総合的なケアが求められていると感じますね。

Voice 設計担当の方からの声

患者さんが使いにくいケースを排除しながら設計しました。



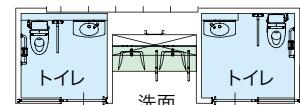
株式会社内藤建築事務所
本社設計部
椿祥一さん

病棟のトイレ配置についてはかなり議論を行いました。集中型では病室からの距離が生じるため、使い勝手を考えると採用できませんでした。また、各4床室の横に設置する分散型は音やプライバシーなどの問題があり、特に夜間は他の患者さんに気を使いトイレに行き辛くなってしまいます。その上、管理・清掃上の問題もある。そこで、半分散型のレイアウトにして、できるだけ広いトイレを確保するとともに、6ベッドに1つくらいの割合にしました。

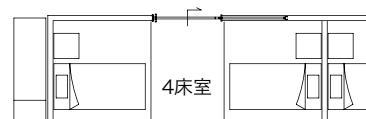
次に4床室の手洗いですが、部屋の中…特に窓側に付けると、手前側の患者さんが使いにくい。そこで、これも割り切って外に出しました。トイレも、手洗いも、外にゆったりとしたスペースを確保したのです。両方とも半分散型にして使い勝手を重視したという点では良かったと思います。



1F外来にある女性用トイレの洗面カウンター。質感と手洗いのしやすさにこだわった洗面器を採用している。



廊下



本館4F 4床室とトイレ周りの平面図



落ち着いた雰囲気の個室。ベッドサイドにも洗面台を設け、便利に利用されている。



病棟に設けられた半分散型のトイレや洗面台。オープンなスタッフステーションも見える。

Voice 看護部長さんからの声

トイレは使いやすく、介助もしやすくなりました。



滝宮総合病院
看護部長
山本悦子さん

8月1日に新しい病棟がオープンすると同時に、電子カルテも導入したんです。その準備も同時進行でしたから、かなりたいへんでしたね。

4床室のトイレについては、部屋にトイレがあるほうが動線が短くていいという意見もありましたが、広さを確保できたので患者さんにとっては使いやすいと思います。看護する側も、いっしょにトイレに入ってどちら側からでも介助できるのは助かりますね。

準備と協力で困難を乗り越え、広く、使いやすく生まれ変わったと、みんなに喜ばれるトイレ。



新しく生まれ変わった女性用トイレ。「扉を外開きにするスペースがない。内開きにすると患者さんの安全が確保できない。かといって折戸にするとお年寄りの方は使い方がわからない。そんな数々の問題を、このアール型スライドドアが解決してくれました」(廣瀬院長先生のコメントより)

1904年の創立以来、地域医療を見つめ続け、その基幹として働き続けている大津赤十字病院。

その病棟を中心とした1号棟(入院病棟)のトイレ改修が、2012年4月末より、順次行われました。

患者さんに、工事期間中に使えるトイレを明確に伝えながら、できるだけ短い期間でスムーズに進行。

アール型のドアがスライドするトイレブースを採用し、和式から洋式便器への切り替えなどが行われました。

同一の空間がきれいに使いやすく生まれ変わったと、患者さんにもスタッフにもたいへん好評です。

快適で安全・安心のあるトイレブースに改修。

壁を壊さず、元のスペースはそのままに、快適・清潔・安全に使えるブースへと改修。スムーズな開閉で出入りのできる、明るいパステルカラーのアメニティ空間へと生まれ変わりました。柔らかいフォルムで圧迫感がなく、点滴患者さんも使いやすいなどのメリットも多い、画期的な改善になっています。



工事中の廊下。スピーディーな工事のため、使えない期間はごくわずかである。



工事期間やどのトイレをいつ使えるかが、わかりやすく貼り紙で明示されている。



10階建てのいちばん高い建物が、今回改修を行った1号棟である。



視線が下のほうへ行く眼科の患者さんでもわかるように誘導が工夫されている。



【大津赤十字病院】 1号棟トイレ改修工事

- 改修年月／2012年4月～10月
- 所在地／滋賀県大津市長等1-1-35
- 施主／大津赤十字病院
- 施工／須賀工業株式会社



工事中のトイレ内部。床も新しく張り替えたが、壁面はそのまま残している。

Voice 院長先生からの声

未来の病院のために、インフラを整備しました。



大津赤十字病院 院長
廣瀬邦彦さん

入院病棟を新築したのは平成2年で、22年が経過しています。私は、病院の建物の耐久性は35～40年ほどと考えていますから、20年だと折り返し地点。そこで、インフラをやり直さなければと考えました。病院全体を考え、院内保育所を移動して新しい立体駐車場を整備したり、病棟の配管の取り替えも行いました。トイレについては、今の住まいでは洋式が多いことや、お年寄りの方が使うには洋式のほうが良いだろうと考えました。入院患者さんへのアンケートでも、圧倒的に

洋式の希望が多かったんです。そこで今回、洋式化をメインとする工事に踏み切りました。入院患者さんを減らさずに、1フロアに2つのグループ機能があってそれぞれにトイレがあることを利用し、片方ずつ改修を行い、工事中はフロア内のもう片方を使ってもらうようにしました。男性と女性のトイレを交互に工事することで大移動を回避。ブースの扉を開き戸にすると男性用トイレでは小用に当たってしまうという問題も、画期的なアール型のドアの採用で解決することができました。

Voice 看護師長さんの声

科の垣根を越え、みんなで協力して乗り切りました。



大津赤十字病院
看護師長
塙成子さん

消化器科では下剤を使うため、和式便器の時は汚れも多かったのですが、今はきれいいで、清掃スタッフも喜んでいます。消化器科の患者さんはトイレの我慢がたいへんなこともあります、例えば女性用トイレの改修時には、入院されて来られる女性患者さんの中で、トイレ使用度の高い方は、他の病棟に入院していただくなど、診療科の垣根を越えてのローテーションで協力して乗り切りました。点滴はもちろん、シルバーカーも入る広さなのはうれしいですね。当初は工事に不安もありましたが、大きなトラブルもありませんでした。



床も湿式から乾式に変え、段差が解消されてバリアフリーに。湿式の時は、水で滑ってしまうことが転倒の原因にもなっていました。



L型手すりで安全を確保。使用状況がわかりやすいように、赤と青の大きなマークで表示。

Voice 事務部の方々からの声

断水・音・においなどの諸問題を解決しながらの大工事でした。



大津赤十字病院
事務部長
永福勝之さん



事務部副部長 兼
総務課長事務取扱
辻勝さん



事務部 施設課長 兼
消防防災係長事務取扱
富江武司さん

すから向きを変え、広く使えるようにしました。断水の時間や音・においの抑制など、多くの問題を解決しながらの大工事でしたね。困難を乗り越え、患者さんの療養環境を改善しようと、スタッフが協力してくれたことが大きかったです。

Voice 工事担当の方からの声

綿密なスケジュールで工事しました。



須賀工業株式会社
京都支店 工事部 主管
前田卓さん

縦の4フロアごとを1度に工事する方法で、効率よく順番に進めました。「工事中でも、奥の洋式トイレは夜には必ず使えるようにしてください」など、患者さんのためのご要望もありましたから、工程を綿密に調整して対応できるようにしましたね。